

修士論文（要旨）
2020年1月

タイ人日本語通訳者の漢字学習ストラテジー使用の分析と考察
ータイ人日本語通訳者へのアンケート調査を中心にー

指導 宮副 ウォン 裕子 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻

218J3009

インチャヤー・コンタレー

Master's Thesis (Abstract)
January 2020

A strategy of Thai Japanese interpreter to learn Japanese Kanji :
Centering on survey of Thai Japanese interpreters

Inchanya Khongthale
218J3009
Master's Program in Japanese Language Education
Graduate School of Language Education
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Yuko Miyazoe-Wong

目次

第1章	はじめに	1
1.1	研究背景	1
1.2	研究目的	2
第2章	先行研究	3
2.1	学習者の漢字学習ストラテジー	3
2.2	漢字学習ストラテジーについて	4
2.2.1	漢字学習ストラテジーの定義	4
2.2.2	言語学習ストラテジーの分類	4
2.2.3	漢字学習ストラテジー	5
2.3	本研究での漢字学習ストラテジーの定義	5
第3章	予備調査	6
3.1	調査目的	6
3.2	タイにおける日本語通訳者へのインタビュー予備調査	6
3.3	予備調査対象者と調査期間	9
3.4	予備調査の方法	9
3.5	予備調査の結果	9
第4章	本調査	18
4.1	本調査の目的	18
4.2	本調査期間と対象者	18
4.3	本調査の方法	18
4.4	漢字語彙学習ストラテジーに関する質問紙調査項目の作成	18
第5章	調査結果および分析	21
5.1	それぞれのグループにおける漢字語彙学習ストラテジー使用	22
5.2	調査協力者全体の漢字語彙学習ストラテジー使用	29
5.3	それぞれのグループにおける漢字語彙学習のその他ストラテジー使用状況	32
第6章	考察	35
6.1	日本語通訳者と学習者のストラテジー使用の違い	35
6.2	日本語通訳者と学習者のストラテジー使用の比較	38
第7章	タイの大学の日本語教育（漢字語彙学習）への提案	40
7.1	教室内での活動	40
7.2	漢字語彙に関する自己評価	40
7.3	日本語学習者の動機作りとしてのCEFR	44
第8章	本研究のまとめと今後の課題	45

謝辞

参考文献

巻末資料

要旨

タイにおける日本語学習において、多くの学習者が直面する困難な点は語彙の記憶とその運用法である。アメリカ、ベトナムなどといった非漢字圏の日本語教育においてと同様、漢字学習は最も大きな問題である。稿者自身も漢字学習の難しさを痛感した。しかし、たとえ漢字（漢語語彙）がどのように難しくても、上級レベルになるにつれてタイ人学習者は漢字学習を避けることはできないであろう。なぜなら、漢字は、日本語の文書で意味を表したり理解するためには必要不可欠だからである。

先行研究では、日本語学習者（以下、学習者）を対象に漢字学習ストラテジーについての調査が行われてきた。渡部（2015）は87項目の「漢字語彙学習ストラテジー」の質問調査票を作成した。この調査の結果、アメリカ、フィリピン、タイなどの非漢字圏日本語学習者が多用する漢字学習ストラテジーは「繰り返して書く」であった。しかし、この研究は教室で指導を受ける学習者だけに限定され、職場における日本語使用者がどのような漢字語彙学習ストラテジーを使用しているのかについての研究は今のところほとんどないようである。

そこで、本研究では渡部が作成した87項目の「漢字語彙学習ストラテジー」の質問調査票を参考にして、タイ在住のタイ人日本語通訳者（以下、通訳者）30名を対象に調査を実施した。分析の結果、次のことがあきらかになった。

1. 学習者と通訳者が使用する漢字語彙学習ストラテジーには、共通するものも異なるものもある。
2. タイ人日本語通訳者は職場での資料やメールなどから漢字語彙を覚え、繰り返し読み書きする。
3. 渡部の87項目の漢字語彙学習ストラテジーに加えて、新たなストラテジー13項目を通訳者は使用していることがわかった。

これは、学習者の漢字学習は一般的に受身的（教師主導のシラバスに従い、単位履修や試験に合格することが目的）であるのに対し、通訳者は日々の仕事で出会う漢字語彙を文脈に沿って類推し使用する必要から、主体的に漢語語彙を増やしていく学習習慣を身につけているからではないかと思われる。今後はさらに考察を深めたい。

漢字語彙学習に特化した新たなストラテジー尺度により、タイ人日本語通訳者はIT利用、知覚情報、聴覚などといった自律的な学びをしているということが分かった。すなわち、今回の結果から、日本語の歌やアニメなどといった好きなリソースを通して、通訳者がリラックスして漢字語彙を覚えるストラテジーを使用しているということが明らかになった。

このようなストラテジーは、有効な漢字語彙指導の指標と考えられるので、大学の授業でもストラテジーとして積極的に取り入れ、学習者が楽しみながら活動に取り組めるような環境づくりを提案したい。活動後、学習者の理解を評価することも重要である。例えば、漢字導入の1年生の時に歌やアニメで使われている漢字を教え、興味を持たせ、漢字学習を促し、1年生が終わった時点で、自己評価をする方法などである。

以上のような本研究の考察結果から、教室内での活動（日本語の歌や歌詞を利用した漢字語彙学習の活動）および漢字語彙に関する自己評価の導入について R 大学の日本語教育現場（漢字語彙学習）に提案したい。

本研究には限界もある。たとえば、A グループ、B グループ、C グループの 3 グループに分けてアンケート調査を行った。しかし、通訳者と言っても、タイにおける日本語通訳としての資格のようなものがあるわけではなく、就業経験以外に協力者の日本語能力を推し量る手段がなかったため、協力者の日本語能力についての情報が不十分であった点は認めない。信頼性と妥当性についても疑問が残る。したがって、今後の課題としては信頼性確保のため、就業経験、就業年数だけでなく、日本語能力試験のレベルも特定して調査していきたいと考える。

タイ人日本語通訳者の漢字語彙学習ストラテジーの使用実態は明らかになったが、日本語学習はストラテジーのみの考察では不十分であり、ビリーフについての考察も必要であると考えられる。タイ人日本語通訳者の漢字学習に関するビリーフは非常に興味深いので、今後の課題としたい。

参考文献

- 池田 庸子 (2007) 「非漢字圏学習者の漢字学習意識とストラテジー使用」『茨城大学留学生センター紀要』 pp.13-21
- 大北 葉子 (1995) 「漢字学習ストラテジーと学生の漢字学習に対する信念」『世界の日本語教育』第 5号、国際交流基金日本語センター、pp.105-123
- 奥村三菜子・櫻井直子・鈴木裕子 (2016) 「日本語教師のためのCEFR」『株式会社 くろしお出版』
- 片桐準二 (2005) 「フィリピンにおける日本語学習者の言語学習Beliefs—フィリピン大学日本語受講生調査から—」『国際交流基金日本語教育紀要』第1号、国際交流基金、pp.85-101
- 加納 千恵子 (2014) 「漢字に関するCan-do Statements 調査から見えるもの—漢字の知識と運用力についての学習者意—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第29号、pp.71-89
- 国際交流基金 (2015) 「タイ国内日本語学習者数」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語部ニュース』 pp. 1-12
- 国際交流基金 (2019) 「2018年度海外日本語教育機関調査結果」『独立行政法人国際交流基金』 pp. 1-17
- 林 朝子 (2010) 「毛筆を生かした漢字指導の試み —読みやすい漢字書字に向けて—」『三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』 pp. 31-37
- 渡部 倫子 (2015) 「非漢字圏学習者のための漢字語彙学習ストラテジー尺度の開発」『漢字・日本語教育研究広島大学』第4号、pp.30-64
- オックスフォードL., レベッカ (1994) 『言語学習ストラテジー —外国語教師が知っておかなければならないこと』宍戸通庸・伴紀子(訳) 凡人者(原著) Oxford, R. L. (1990) Language Learning Strategies: What Teachers Should Know. New York: Newbury House.)
- ウラムバヤル, ツェツェグドラム (2009) 「漢字学習ストラテジーに関する研究の現状と課題—非漢字圏日本語学習者にとっての効果的な学習ストラテジーとは—」『日本言語文化研究会論集』第5号、pp.43-52
- ソムチャイ・チャイヤケッタナン (2008) 「タイ人日本語学習者の漢字学習に対するビリーフとストラテジー使用」チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座修士論文、pp.1-48
- パッキニキー・トンリム (2002) 「非漢字圏日本語学習者の漢字学習方法と漢字カータイの学習者を対象として— (平成13年度筑波大学院地域研究科修士論文)」
- ヴェントゥーラ, フランチェスカ (2007) 「フィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習に対する ビリーフとストラテジー使用—漢字教育の改善のために—」『日本語文化研究会論集』第 3 号、国際交流基金日本語国際センター、pp.141-168

- Bourke, Barbara (1996) Maximising efficiency in the Kanji Learning task. Doctoral Dissertation. University of Queensland.
- Chorladda Wimonwittaya (2010) 「タイ人の初級日本語学習者の漢字学習ストラテジー」『日本語教育方法研究会誌』 Vol. 18 No 1 pp. 60-61
- Chorladda Wimonwittaya (2012) 「タイ人初級日本語学習者の漢字学習に関する事例研究—漢字の自由記述課題の結果から—」『筑波大学大学院人文社会科学研究所』 pp. 36-43
- Chanantorn Rungtanyanitorn (2012) “A Study of Kanji Learning Strategies Used by Upper Secondary-School Students”, Thammasat University, pp. 58-69
- Jasso (2017) 「外国人留学生国籍状況調査結果」『独立行政法人日本学生支援機構』 pp. 3-20
- Oxford, R. L. (1990) “Language Learning Strategies”: What Every Teacher Should Know Boston: Heinle.
- Songpol Ratdilokpanich (2015) “The Development of Multimedia for Learning Kanji Characters through Picture-Linked Techniques”, Faculty of Education, Dhonburi Rajabhat University, pp. 33-50
- Tasaneethapapit (2004) “Problems of studying Japanese for Thai learners” thammasat university, pp. 50-70
- Toyoda, E (2007) “Enhancing Autonomous L2 Vocabulary Learning Focusing on the Development of Word-Level Processing Skills. The Reading Matrix”, Vol. 7(3), pp. 13-34